

ゲーテアヌム舞台グループの新演出による 2010年ルドルフ・シュタイナーの神秘劇

秘儀参入の関門（イニシエーション）
魂の試練
境域の守護霊
魂の目覚め

芸術総監督・オイリュトミー演出：ジョイア・ファルク
演劇演出：クリスチャン・ペーター
舞台背景・衣装：ロイ・シュパーン
照明：ペーター・ジャクソン、イルヤ・ファン・デア・リンデン

この頁は、ゲーテアヌム舞台グループ発行のこのパンフレットを要約して訳したものです。



4つの神秘劇は、輪廻転生とカルマ、個人のスピリチュアルな発達、共同体形成、悪の力との関係性などのアントロポソフィーの中心的テーマに芸術的表現方法を与えた、ルドルフ・シュタイナーの力作です。

それはある集団に属する人々の魂的・霊的発達の途上における危機と進歩を記述しています。その中で一個人の霊的発達がいかに関団の運命に影響するのか、共同体は各々の危機や過ちを共有することで初めて真の共同体となることなどが描かれていますが、ここに、シュタイナーの未来的な社会性のヴィジョンが見られるのです。

主要人物たちはヨーロッパ中世、古代エジプトの過去生へと遡ることで、その運命が展開していきます。彼らの瞑

想や夢の内容として現れてくる過去生が壮大なスケールで描かれます。

また、霊的発達の各フェーズには、悪の力の新たな脅威や眼くらましがつきものです。ルチファーとアーリマンは霊性開花のために欠かせない同伴者として各所に現れます。ゲーテのファウストにおいて悪を人間の進化に必要なものと理解する見方が示されましたが、それが神秘劇において完成を見たのです。

2010年はミュンヘンで第一作が初演されてから100年目、シュタイナーの生誕150年の前年に当たります。この年にゲーテアヌムにおいて新演出で神秘劇全作が上演されるのです。

「それ自体としての発達、一般的な発達というものはありません。一個人の発達、二人目の個の発達、三人目の個、四人目の個、何千人という個の発達があるだけです。そして世界の人の数だけ、発達のプロセスもあるはずなのです。」

ルドルフ・シュタイナー、全集125巻収録、1910年10月31日の講演

ゲーテアヌムにおける神秘劇全4作 一括購入チケット価格⁽¹⁾

カテゴリー	正規価格		早割り価格 ⁽⁵⁾		割引価格 ⁽⁶⁾	
	ユーロ	日本円	ユーロ	日本円	ユーロ	日本円
K1 ⁽²⁾	640	¥86,000	480	¥64,000	420	¥56,000
K2 ⁽³⁾	480	¥64,000	360	¥48,000	320	¥43,000
K3 ⁽⁴⁾	310	¥42,000	240	¥32,000	200	¥27,000
食事(1日)	13.50	¥1,800	(1ユーロ=133円で計算) ⁽⁷⁾			

(1) バラ売りチケットの価格、各カテゴリーの座席配置などは、オリジナルパンフレットをご参照ください。

(2) 2～7列の座席1～12と中央ブロック

(3) 8～23列の中央ブロック

(4) 1～23列の端の座席、24・25列

(5) アントロポソフィー協会の会員以外で、3月31日までに申し込む人に適用

(6) アントロポソフィー協会の会員割引

(7) 実際には、チケット購入時のレートで換算することになります。

「神秘劇鑑賞ツアー」のご案内

ルドルフ・シュタイナーの神秘劇全4作のゲーテアナムにおける夏の連続上演（2010年7月29日から8月1日）に合わせた日本人向けツアーを企画しています。すでに英語とフランス語の通訳が予定されていますが、日本からの参加者がある程度の人数になれば、日本語の通訳もつけてもらえることになっています。

大ホールでの講演はイヤホンによる同時通訳、分科会はジョイア・ファルクおよびゲーテアナム舞台グループの現役オイリュトミストを講師とする日本語通訳つきオイリュトミーを予定しています。

ツアー形態：原則的に現地集合、現地解散

費用

ツアーにかかる経費は、航空券代金実費、神秘劇チケット代、現地での宿泊・食費の実費、エクスカッション実費、参加人数によって変わるツアー参加費（ガイド・通訳の経費を参加人数で頭割り）の合計です。

お申し込みの段階でまずゲーテアナムに支払うチケット代をご入金いただき、個々の参加者の最終的な経費は、参加人数が確定し、セットアップが完了した時点（5月ごろを予定）でお知らせし、入金をお願いすることになります。

経費試算：仮に航空券が18万円、神秘劇チケットを会員割引でカテゴリー2を買い、ドルナッハでホームステイをして、エクスカッションに参加し、全体で20人の参加があったとすると、

航空券:	180,000
チケット:	43,000
現地経費:	約60,000
ツアー参加費:	約50,000
エクスカッション参加費:	約8000円

合計:	約341,000円

香川裕子略歴

1991年人智学運動に関わりはじめる。92年に渡独。ハンブルグ・オイリュトミー学校卒業後、ライプツィヒのヴァルドルフ学校でオイリュトミー教師として勤務。キリスト者共同体自由大学、ビンゲンハイムにおける治療教育実習を経て、シュトゥットガルト・ヴァルドルフ教員養成ゼミナールの教育オイリュトミー・コース修了。その後四年間バーゼルに住み、ゲーテアナムの公式日本語ガイドを務める。その間、ヴァルドルフ幼児教育国際会議、オイリュトミー会議で同時通訳と日本人参加者のケアをする。

2006年帰国。現在、あしたの国シュタイナー学園でオイリュトミー専科を担当する傍ら、フリーで講座、芸術活動、人智学関係の通訳・翻訳業に従事。

ツアー成立最低人数：12人

定員：25人

申し込み期限：3月15日

- ・宿泊は、条件の良いところからうまっていますので、できるだけ早く申し込まれることをお勧めします。
- ・早割りチケットの申し込みの関係で、3月15日で一次募集を締めさせていただきます。その時点で定員に達しなければ、ツアーは中止します。
- ・期限を過ぎても、ゲーテアナムのチケットが完売しないかぎり参加は可能ですが、他の方々と同等のサービスの提供は保証できません。

プログラムについて

7月28日のゲーテアナム近隣ガイド、8月2日のエクスカッションの内容については、参加者のご希望に沿う余地があります。

また、せっかくスイスまで行くのだから、もっと長く滞在していろいろまわりたい、という方々には、個人または小グループのオプションツアーを提供することも可能です。たとえば、グリンデルワルトをはじめとするスイスの山々、フランスはアルザス地方のル・コルブジェ建築の丘の上のノートルダム教会、シュトラスブルグ大聖堂、ライン対岸のドイツ側ではフライブルグ大聖堂などは、ドルナッハから日帰りできる観光スポットです。

申込み・問い合わせ：香川裕子

Tel+Fax: 0466-53-3425 Email: hirokokagawa@kind.ocn.ne.jp

<http://www.jade-initiative.net/>

お問い合わせのあった方に、ツアーの詳細とゲーテアナムのオリジナルパンフレットをお届けいたします。

2010年7月28～8月2日 「神秘劇鑑賞ツアー」プログラム

7月27日(火)	7月28日(水) 近隣ガイド	7月29日(木) 会議1日目	7月30日(金) 会議2日目	7月31日(土) 会議3日目	8月1日(日) 会議最終日	8月2日(月) エクスカーション
各自、ドルナッハへ向かう	9:30 ゲアナム集合 ゲアナム内・周辺ガイド	9時～12時 講演、デモンストレーション、ワークショップ	9時～12時 講演、デモンストレーション、ワークショップ	9時～12時 講演、デモンストレーション、ワークショップ	9時～12時 講演、デモンストレーション、ワークショップ	8:30 バスで出発 Ottmarsheim 教会見学 10:00 Colmar へ
	12時 昼食	12時 昼食	12時 昼食	12時 昼食	12時 昼食	ウンターリンデン美術館でイーゼンハイム祭壇画等鑑賞 自由行動
宿舎にチェックイン	バーゼル市観光 または イタ・ヴェーグマン 病院 見学など	14時～ 第1劇 秘儀参入の関門 (イニシエーション)	14時～ 第2劇 魂の試練	14時～ 第3劇 境域の守護霊	14時～ 第4劇 魂の目覚め	16:00 ドルナッハに向けて発つ 18:00 帰着 (お別れ夕食会)
		22:30 終了	22:30 終了	21:30 終了	23:00 終了	8月3日(火) 解散。 (帰国、移動、延泊など)

[変更の可能性あり]

せっかくの機会だからゲアナムの大劇場に座ってみたい、神秘劇も見てみたい、けれども神秘劇のことは全然わからないという方のために...

神秘劇勉強会のご案内

神秘劇に興味がある人たち、2010年夏にドルナッハへ神秘劇を見に行きたい人たちで勉強会をしております。前提となる知識などは必要としません。どうぞ、お気軽にご参加ください。

日時 1. 1月16日〔土〕
2. 2月13日〔土〕 } 13～15時
3. 3月13日〔土〕 }

場所： ルドルフ・シュタイナー芸術アカデミー、アウラ
JR国分寺駅より徒歩8分、地図の必要な方は、お申し出ください。

参加費： 一回1000円 ※テキスト代は別途集めさせていただきます。

講師： 香川 裕子

今、なぜルドルフ・シュタイナーの神秘劇なのか？

1993年、ほぼ何もわからずに初めて神秘劇を見た私に、舞台上のアーリマンとルチファーの印象は強烈でした。それが自分の内側にある要素なのだと理解したのは、それから3年ほど経ってでしょうか。...それで、シュタイナーの神秘劇は人間の魂の内側にあるものを外的な出来事として舞台上に現すから、「神秘」劇なのだとわかりました。

今日、先進国では個人の自己意識が強まってきて、伝統的な共同体は崩壊しつつあります。その中でアントロポゾフィー運動も世界中で勢いが衰え、新たな次元での展開が求められています。私もそれに関わる仕事をしていて、運動を広げていくことの難しさに直面しています。

個が確立すること、その過程で第一次的な共同体が崩壊することは人類の発展の方向性ですから、私たちは正しい進歩の途上にあるのです。しかし崩壊と同時に、人間関係向上のための新たな視点を獲得していかなければ、新たな社会は構築されません。

その大前提が、人間同士が互いの違いを認め理解し合う文化だと思うのです。様々な体験・経験を背負って生きている私たちは、違って当たり前、対立や誤解があって当たり前です。その前提の上で、社会的な危機を乗り越えるべき課題

として受け止め、真の人間関係をつくるための機会だと考える視点こそ、今日求められていると私は思います。それがカルマの理解であり、神秘劇の主要テーマの一つです。

もう一つのテーマが、悪とどうつきあっていくかという問題です。誰もが悪の力を自分の中に持っており、時として道はずすことも、人を傷つけることもあることを受け入れねばなりません。自分もそうだし、相手もそうなのです。それが腹の底から理解できたとき、他者を真に赦すことが可能になり、そこに癒しがおきます。

これらの意味で、シュタイナーの神秘劇はまさに現代的で、今こそ、多くの人に知ってもらいたい作品です。

なお、近年の共同体崩壊の力はゲーテアヌムにも及んでいて、資金不足から、このように大きなプロジェクトを行うことが年々難しくなっています。ですので、次の神秘劇全作上演があるかどうか、わかりません。

いつかは...、そのうちに...、と思っているなら、今です。百聞は一見にしかず、ぜひこの機会に、共に神秘劇を学び、観に行きましょう！



香川 裕子

私たちが参加している神秘劇、ぜひ、ドルナッハへ見に来てください！

プロジェクトに参加している4人の日本人オイリュトミストより

第二ゲーテアヌムの前で
2009年10月撮影、
中央がジョイ・ファルク

私の役割は、第四作「魂の目覚め」の第二景と第五景のグノームで、舞台に立っている時間はそれほど長くはないのですが、このグノームの持っている意味、そしてさらに神秘劇全体の意味を把握することがなかなか大変な作業です。でも、このように具体的に演出に参加しながらその意味を探っていけることは、とても幸せなことだと思っています。日本人の方々にも、是非ゲーテアヌムの舞台で神秘劇を見ていただき、また、神秘劇に関心を持っていただけたらと思っています。

浅田 豊



ロゲンキャンプの舞台装置で見慣れてきた神秘劇も、今回新しい試みで舞台・衣装・照明・音楽など変わってしまいました。精神・知的世界の場面にはオイリュトミーがたくさん入り、俳優達との共同研究・討論の毎日です。オイリュトミーでテキストの意味・内容・関係を具体的に表現するのが目的なのですが...

ゲーテアヌムのオイリュトミーアンサンブルに属しているので、神秘劇は必須の作品で今まで数回公演していましたが、毎回新しい観点を見つけ、ルドルフ・シュタイナーの奥の深さと同時に、私達の人生・現在の社会との身近さをつくづく感じさせられています。

ペーター・岩松 里穂

オイリュトミーで私が参加している第四劇「魂の目覚め」では、霊界の場面が、大勢のオイリュトミストによって、色彩豊かに表現されます。登場人物たちが、生まれ変わる前に通過した、太陽領域、土星領域の空間自体をオイリュトミーによって造形します。ルチファー、アーリマン、境域の守護霊、三つの魂の力のほか、土の精グノームや空気の精シルフェも登場し、今回の新演出では、これらの霊的存在が全てオイリュトミーで表現されるという、ぜひたいく企画です。

森 ひろ美

神秘劇第四作目「魂の目覚め」の第二景で、浅田さんと一緒にグノームのお面を着けて登場します。このお面は、ヨハネス・ファルクが竹ひごにガーゼを張って一体ずつ手作りしたもので、風の様な形をしています。とても軽いために、着けて動くとふわふわと揺れてしまいます。グノームの鉱物的なキャラクターをこのお面と一緒にどう動かすか、八体(?)のグノームみんな練習しています。

浜野 妙子

* - *

発行：2009年12月11日

ヤード・イシアティヴ <http://www.jade-initiative.net/>